

授業科目名	ソーシャルワーク演習(専門)	単位数	8単位
担当教員名	堀越由紀子・矢原絵里・平雅夫・砂田淳一郎・新明綾乃	担当形態	複数
実務内容 (実務家教員の場合)	社会福祉士として福祉現場の経験がある教員が、実践的視点からソーシャルワークについて指導する。		
「学位授与の方針」との関係			
DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる(専門知) DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自立的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力)			
授業のテーマ及び到達目標			
<p>社会福祉士が働く分野は多様であるが、人間の尊厳の尊重と社会的公正の希求という価値と原理、それに基づく専門知識や専門スキルを駆使して行われる実践はソーシャルワークとしての普遍性をもっている。そこで、本科目では、以下を到達目標とする。</p> <p>①事例について、ミクロからマクロまでのSWの体系を念頭に検討・分析し、実践のありかたを検討する。</p> <p>②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値と原理を理解し、具体の事例における倫理的な判断能力を養う。</p> <p>③現代社会の諸課題に直面する人々に対して、当事者本位の姿勢を保持しながら、分野横断的かつ重層的、包括的な支援を提供するための道筋と具体的方法を実践的に理解する。</p> <p>④SW実習あるいはSW実践における経験知をもとに、事例検討、事例分析、事例研究を行い、ソーシャルワークにおける省察的实践と研究の意義を理解する。</p>			
授業の概要			
現代社会における福祉課題が反映された諸事例を取り上げながら、ミクロ、メゾ、マクロの次元で行われるソーシャルワーク実践のありかたを演習形式の授業を通して検討し、実践的観点から社会福祉士に求められるソーシャルワークの専門スキル等を学修する。			
授業計画			
<p>第1回:複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援とは 第2回:生活困窮世帯とソーシャルワーク実践 第3回:ひきこもり状態にある人とソーシャルワーク実践 第4回:子ども虐待とソーシャルワーク実践 第5回:障害者の権利侵害とソーシャルワーク実践 第6回:高齢者のセルフネグレクトとソーシャルワーク実践 第7回:広域災害とソーシャルワーク実践 第8回:人生の最終段階にある人とソーシャルワーク実践 第9回:企業等職域におけるソーシャルワーク実践 第10回:学校等教育の場におけるソーシャルワーク実践 第11回:地域課題の解決とソーシャルワーク実践(1) 第12回:地域課題の解決とソーシャルワーク実践(2) 第13回:プログラム評価・サービス評価 第14回:施設・機関運営とソーシャルワーク 第15回:ソーシャルワークスーパービジョン</p> <p>科目修得試験</p>			
スクーリングでの学修			
複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援が求められる状況下で、人々が直面する多様な課題について、具体の事例を用いて検討し、ミクロからマクロまでのソーシャルワーク実践の展開について共同学習を行う。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
適宜紹介する			
学生に対する評価			
レポート評価(25%)、スクーリング評価(50%)、科目修得試験(25%)			